

2008年1月29日

日本計量生物学会理事会
East Asia Regional Biometric Conference 2007 報告

プログラム委員長 佐藤俊哉

2007年12月9日(日)から11日(火)にかけて、East Asia Regional Biometric Conference 2007 (EAR-BC'07)を東京大学弥生講堂一条ホールにて開催しました。12月8日(土)の海外招待者、国内組織委員会有志による夕食会からはじまり、盛会のうち終了することができましたので、関係各位のご協力に感謝するとともに、ここにご報告いたします。

総演題数は、

キーノートレクチャー	1 題
オープニングセレモニー	5 題
招待講演(3 セッション)	9 題
一般講演(5 セッション)	20 題
ポスターセッション	12 題

の計47題でした。うち海外からの演題はオープニングセレモニー4題、招待講演3題、一般講演6題、ポスター1題と、幸い国内外からバランスよく申し込みがありました。

会議はIBS庶務理事 Ashwini Mathur 先生の司会によるオープニングセレモニーからはじまり、IBS 会長 Thomas Louis 先生による「Our Future as History」と題したIBSのあゆみとこれから果たすべき役割についての講演、韓国、インド、中国、日本各支部のあゆみや現在の取り組みについて紹介がありました。

引き続き学術講演では招待、一般講演ともに活発な討論があり、2日目には丹後会長による「Tests for Spatial Randomness: Detection of Disease Clustering and Outbreak Threat」と題したキーノートレクチャーで、Tango's Index をはじめとする疾病集積性に関するこれまでの研究についてのまとめが報告されました。

コーヒーブレイクなども国内外の参加者同士、話がはずんでいました。インド、韓国、中国の会長、庶務理事の方々にもこの会議は好評で、今後IBCの間の年に持ち回りでEAR-BCを開催することになりそうです。日本支部としては初めての試みでしたが、無事に終わることができてほっとしています。

最後に、会場での運営にご協力いただいた NPO 法人日本臨床研究支援ユニット 毛利さん、堀さんおよび学生アルバイトのみなさんに感謝いたします。

